

「私のフィールドノート」-岩木山からヒマラヤ・チベット、白神山地、津軽の山々-

根深 誠

記録作家、津軽百年の森づくり代表、明治大学山岳部炉辺会

Wikipediaから抜粋して転載し、加筆して編集しました（再掲）。（編集責任：前田栄三）

青森県弘前市に生まれる。小学校の時から登山に親しみ、下駄履きで岩木山登山をして来たこともあった。1964年1月に岩木山でおきた[高校生](#)の遭難事件では、岩木山に偶然居合わせ、搜索活動などに参加している。

1977年ヒマール・チュリ東尾根、1981年エヴェレスト西稜、ともに登頂に失敗。1984年、アラスカ・マッキンリー植村直己搜索隊に参加。1986年ゴッラゾム（5600m級の無名峰、廣島三朗氏の命名。パキスタン）、1988年シャハーン・ドク（6194m、パキスタン）初登頂。ヒマラヤの未踏峰6座に初登頂している。

1992年、日本人僧侶河口慧海師のチベット潜入経路を調査。河口慧海のチベット潜入経路を辿った紀行文、『遙かなるチベット』（山と溪谷社、1994年）で第四回JTB紀行文学大賞受賞。2004年ヒマラヤ奥地ドルポのツアルカ村に3年がかりで鉄橋の架設工事を支援。その模様を著書『ヒマラヤにかける橋』に書く。

1983年、白神山地を分断しようとした春秋林道の建設計画に反対するために「白神山地の自然を守る会」「春秋林道に反対する連絡協議会」を設立。白神山地の保護活動や世界遺産登録で大きな役割を果たす。ただ、白神山地の世界遺産登録そのものには否定的な態度を取り、白神山地入山問題では自由な入山を主張。

1994年から2003年までイエティの現地調査を行い、2012年、その正体はチベットヒグマであるとの調査結果を発表。現在は「津軽百年の森づくり」の代表として、ブナの仲間の木々を、毎年ふるさとに植樹している。

懇話会では、ドルポのツアルカ村での鉄橋架設工事の様子を映像（40分）で紹介する。

次頁以降に添付した資料は、「岳人」2019年2月号に掲載された記事である。